令和５年度 学校だより ７月号

なかお

第４４７号
令和５年６月２３日
発行者　横浜市立中尾小学校
校　長　廣瀬　ユミ
https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nakao/

日光修学旅行を通して見えたこと

校長　廣瀬　ユミ

早いもので、スポーツフェスタが終わってからもう一か月が過ぎようとしています。久しぶりの人数制限なしでの開催でしたので、子どもたちは頑張ってきた成果を多くの方々にお見せしようと本当に張り切っていました。皆様に中尾小の子どもたちのよさである「明るさ、素直さ、粘り強さ」をお見せすることができたのではないかと思います。様々な場面で地域や PTA の方々にご協力、ご理解をいただきまして本当にありがとうございました。

先日、６年生と一緒に日光修学旅行に行ってきました。私が初めて日光に行ったのは、自分が６年生のときの修学旅行でした。友達との宿泊が初めてだったのでうれしくてたまりませんでした。うれしすぎて日光東照宮や輪王寺、華厳の滝などの見学より友達と話したことの方が、ずっと記憶に残っています。教員時代にも日光には何度も訪れましたが、今回の日光旅行は私にとって新たな発見がありました。

一日目のだいや体験館見学で、館長さんが「ここにある日光東照宮の１０分の１模型は数十人の職人さんが６年をかけて細かくつくられた模型で、実際の材料と同じ金箔や漆を使い、すべて手作りした貴重なものです。」と説明してくださいました。また、何度も建造物を修復していくとその時代を反映させたものに変化していくことや、表門に彫られているバクは今では夢や悪夢を食べる生き物と言われていますが、江戸時代は金属を食べると信じられていたことも教えていただきました。そして、五重の塔の真ん中を貫いている「心柱」は、がっちり固定せず地震などの時にはわざとゆらいでゆれを吸収するようになっており、これと同じ構造でつくられた建造物が東京スカイツリーであることなど、そのものの魅力をたくさん伝えてくださいました。

館長さんは最後に、職人さんがこのようは模型を後世に残したかったのは、平和であったといわれるこの時代をこれからはみんなが作っていく番であることに気づいてほしいという願いが込められているのではないかと６年生に向けて述べられていました。

私は日光東照宮に訪問することがとても楽しみになりました。

二日目、学んだことを念頭に置きながら、建造物の細かいところまで見ようといろいろな角度から眺めてみました。すると、今まで何度も見ていた東照宮に別の美しさを感じ、職人さんの思いが伝わってくるような気がしました。同じものが違うもののように見えたのです。専門的に学んでこられた方の話をお聞きしたあとに本物を見ることで、自分の視野が広がり、作った人の気持ちも自然に想像することができたのです。

７月は個人面談があります。本校は「知・徳・体」のバランスのとれた子どもの成長を目指しております。担任から見たお子様の様子、成長しているところやよさ、目標や今後の課題を共有し合った後、お子様の様子をじっくりご覧になっていただくと、今まで気づかなかった良さが見えてくるかもしれません。